



和装にも洋装にも合う 柄足袋を創作

戸塚喜久代さん(忍・81歳)

今年、日本遺産認定やTBSテレビ「日曜劇場『陸王』」の放送など、行田の足袋が全国的に再び脚光を浴びています。そうした中、創業100年近い足袋業者で60年以上にわたって足袋を製作しているのが、戸塚喜久代さんです。戸塚さんが足袋を縫い始めたのは、足袋業者に嫁ぐことが決まった20歳のとき。当初は別の市内足袋業者で修業をし、基礎的な技術を学びました。3年後、結婚し戸塚足袋(現・創作足袋 千代の松)に嫁いだ戸塚さんは「姑さんからは、足袋を縫う技術の他に、職人さんを大切にすることを教わりました」と昔を振り返り、「ご自分が履いてくれるのかなあと思いつながら足袋を縫うところにロマンを感じます」と足袋作りの楽しさを語ります。



創業以来、白足袋や黒足袋を生産していましたが、年々生産量が減少していきました。それでも、日本古来の伝統文化・産業である足袋を再興させたいと考えていたある日、都内デパートで陳列されている和柄の手ぬぐいや風呂敷を目にしたことをきっかけに、15年ほど前から柄足袋作りを開始。和装にも洋装にも合わせられるようなデザインが評判を呼び、最近ではテレビや新聞などで取り上げられることも増えてきました。「うちの足袋を求めて遠方からはる行田市を訪れてくださる方に会えることが、すごくうれしいです」と戸塚さんから笑顔がこぼれます。平成27年11月には埼玉県指定の伝統的手工芸品の製造に従事する技術者の中でも優れた技術を有するとして「平成27年度埼玉県伝統工芸士」に認定されました。「認定は、一緒に足袋作りをしている職人さんとも一緒にいただいたものと思います」と仲間への感謝を口にします。

現在は都内に暮らす孫娘が柄足袋の生地選びや商品名の考案、インターネット販売などにも協力し、世代を越えて一緒に足袋生産に関わっていることに幸せを感じているそうです。「いつか息子の嫁と孫娘との3世代で足袋作りをしたい」と夢を語る戸塚さんは、「心を込めて丁寧に作る」と一途な気持ちで伝統を守りつつ、新たな生地との出会いを楽しみに魅力的な足袋を作り続けることでしょう。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で
広報広聴課へご応募ください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 俳句 | 西新町 青木 泰山 |
| 秋遍路記者の余生を持て余す | 持田 丸山 麟一 |
| 夫病みて一喜一憂虫の秋 | 望郷を煽るごとくにちちろ鳴く |
| 荒木 藤田 明枝 | 持田 伊藤 洋子 |
| つつがなく終へし法事や石路の花 | 夕映へに鷹渡りゆく遊水池 |
| 谷郷 大谷 峯生 | 桜町 長谷川さく |
| これきしと老いの強がり神無月 | 娘の忌日近づき石路の咲き揃ふ |
| 荒木 藤田 栄之 | 喪の家のしづかな動き秋ともし |
| 平凡に生きて知足や冬茜 | 佐間 須永 節子 |
| 矢場 鈴木かづの | 白菜を抱えて孫の得意顔 |
| 秋の暮街路に鳩のふくみ声 | 渡柳 川田 清 |
| 富士見町 鈴木スイ子 | 一票の重みつくづく秋の陣 |
| 乾杯の新酒に酔ひし加賀の夜 | 持田 島田 悦子 |
| 柵田町 春田 枕流 | セーターの好みの色は実むらさき |
| 麓より煙ひとすぢ秋の山 | 富士見町 小野田直子 |
| 須加 須加かづ江 | 敬老会父の形見の杖を手に |
| 満天の星月夜なり利根の郷 | 渡柳 川田 静江 |
| 城南 橋本千枝子 | 湯の里に一足先に龍田姫 |
| 乱れ萩ぼつりぼつりと雨になり | (三沢 一水 監修) |

はじめまして



平成29年2月生まれのお子さんを募集します

○12月1日(金)～28日(木)に電話またはEメールで
広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、1月5日(金)午前11時から
市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成28年12月生まれのおともだち ★★★



柿沼 柚月ちゃん(長野)
平成28年12月6日生まれ
父・隆太さん 母・裕美さん
「笑顔をとくさん咲かせてね」



大山 颯介ちゃん(渡柳)
平成28年12月30日生まれ
父・智明さん 母・佳代さん
「思いやりのある子に育ってね」



野林 玲唯ちゃん(長野)
平成28年12月2日生まれ
父・義史さん 母・由美さん
「笑顔ありがとう!!!」



坂田 真桜ちゃん(長野)
平成28年12月4日生まれ
父・智孝さん 母・詠子さん
「笑顔いっぱい育ってね」



木村 凱煌ちゃん(埼玉)
平成28年12月29日生まれ
父・賢悟さん 母・舞子さん
「煌めけ!!! 我が家の一番星☆」



犬飼 真也ちゃん(持田)
平成28年12月25日生まれ
父・和徳さん 母・美代子さん
「元気にたくましく育ってね♡」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!!

くじらい乳業株式会社

長年の知識と経験を生かしたヨーグルトづくり



会社プロフィール

代表取締役社長 **木村 修二**
【事業内容】乳製品製造業
【所在地】富士見町1-5-3

明治8年に熊谷市で創業したくじらい乳業株式会社は、長年牛乳やヨーグルトを中心とした乳製品を製造してきました。そして平成26年に株式会社日本キャンパックが経営に参画し、平成27年には富士見町に新工場を建設、生産拠点を移して新たなスタートを切りました。

事業を乳製品の製造に切り替えた同社では、現在チチヤス株式会社から「チチヤスクラシックヨーグルト」「毎朝快調ヨーグルト」など9種類のヨーグルトの製造を委託されています。これらの商品は同社工場(1日約20、50万個製造)で、東日本を中心に出荷されます。また、同社では業務用ヨーグルトベースも製造。これは2、8種類の乳酸菌を独自にブレンドし発酵させたもので、特定保健飲料や栄養補助食品の原料として幅広く活用されています。代表取締役社長の木村修二さんは「乳酸菌は温度管理、時間管理、衛生管理が重要で、ヨーグルトの味に影響を与えます。私たちは昭和30年から続けているヨーグルトづくりの経験を

生かし、衛生的かつ安定した品質で製造しています」と説明してくれました。

同社工場では、プラスチック容器の成型からヨーグルトの発酵、充填、出荷までを一貫して実施。全工程において機械によるオートメーション化が進み、作業の効率化が図られています。また、衛生管理も徹底しており、最新の空調設備であるソックダクトを取り入れ、フィルターを通して常にきれいな空気を送り、部屋の温度・湿度を一定に保っているそうです。

今後については木村さんは「現在の工場の稼働率はまだ60パーセント程度。今後はラインを増設させ、扱う商品の種類も増やしていきたいと思っています。また地元でヨーグルトを作っていることを多くの人に知ってもらい、親しみをもってもらいたいですね」と笑顔で話してくれました。健康食品として人気の高いヨーグルト。これからは行田市から人々の健康を支えるための商品を届けていきます。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。